



石川県済生会金沢病院 〒 920-0353 金沢市赤土町二 13-6 TEL (076) 266-1060 FAX (076) 266-1070
E-mail saiseikh-s@po3.nsknet.or.jp URL <http://www.saiseikaikanazawa.jp/>

ご利用の皆様へ

副院長 荒木 勉



『生き残るための変化』

9月26日厚生労働省は、再編・統合が必要な公立・公的医療機関(424病院、うち県内7病院)のリストを公表し、各都道府県においても地域医療構想調整会議で他の病院と協議しながら、来年9月末までに対応方針を決めるよう求めてきました。そのリストには、東京都の中央病院を含む全国で21の済生会病院の名前も挙がりましたが、我が金沢病院の名前はありませんでした。患者さんや職員に余計な不安や混乱を与えずに済んだことは幸いでしたが、「リストに名前がなくてラッキー」とは微塵も考えていません。むしろ逆で、現在当院で検討中の病床機能の見直しを加速させる契機となりました。

昨年1月に石川県立中央病院が新築オープンし、直線で3kmほどしか離れていない当院では、これからもその影響は避けられません。また、来年4月には診療報酬改定も予定されており、当院を取り巻く医療情勢は今後さらに厳しくなるものと予想されます。この地域で当院に求められている役割は何なのか、その役割を果たすために病床機能をどう見直していくのか、そして、近隣の石川県立中央病院とどう連携していくのか。地域医療構想調整会議や済生会本部の会議などに参加して情報を集め、院内のワーキンググループ等で慎重に検討した上で、なるべく早く当院の方向性を示したいと考えています。

当院は、1994年に本町から現在の赤土町に移転、1995年に緩和ケア病棟(28床)を開設、2000年に回復期リハビリテーション病棟(45床)を開設、2012年に急性期4病棟で入院基本料7対1を取得、2017年に地域包括ケア病棟(42床)を開設(急性期は3病棟に)と、その時代のニーズに合わせて柔軟に変化してきました。『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。』という言葉があるように、当院はこれからも生き残るために変化し続けなければなりません。よりよい道を選択し、職員一丸となって突き進むしかありません。職員の皆さん、そして本誌をお読みの皆さんのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

院内文化祭・世界糖尿病デー啓発イベントを開催

去る11月1日から11月8日までの8日間、当院エントランスホールにて恒例の院内文化祭を開催。作品展では、患者さんや職員、地域の二塚公民館からも作品を募集し、手芸や書画など約30点を展示しました。個性豊かな作品が多く、それぞれ作者の想いが伝わってくるようでした。

文化祭初日には、オーケストラ・アンサンブル金沢のフルートやオーボエ、クラリネット、ファゴットの合奏者によるボランティアコンサート『4人のミューズが奏でる「木管四重奏」』が行われ、プロの奏でる重厚かつ澄みわたる音色に、訪れた観客は魅了されていました。アンコールでは“ふるさと”が演奏され、慣れ親しんだ曲調と相まって会場全体が温かい雰囲気になっていました。



作品展



オーケストラ・アンサンブル金沢有志のボランティアコンサート



フットケアコーナーとバルーンアーティストのおざりんさん

また、11月5日には、今年からの試みとして、世界糖尿病デー(11月14日)の啓発イベントが行われました。スタンプラリー形式で行われ、参加者には、6つのコーナー(公開講座、フットケアコーナー、血糖測定コーナー、健康測定コーナー、糖尿病関連の食品紹介・運動機能チェック、作品展)の内、4つ以上のコーナーに行き、スタンプをもらうことで、健康に関連した記念品がプレゼントされました。バルーンアーティストのおざりんさんのバルーンアートショーも行われ、参加者は、各コーナーでの体験結果に興味を示しつつ、職員に食事や日常生活の悩みなどを相談しながら、糖尿病への関心を高めていました。



血糖測定コーナー



公開講座(武田医師による『糖尿病について』)

「リレー・フォー・ライフジャパン2019石川」に参加

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い征圧を目指すチャリティー活動「リレー・フォー・ライフジャパン2019石川」が金沢市若松町の「share(シェア)金沢」を会場に、9月28から29日の2日間にわたり開催されました。当院からは、実行委員長の龍澤副院長をはじめ40名のスタッフが参加し、仲間とタスキをつなぎながら24時間かけて夜通し歩きました。会場全体では、延べ千人以上の多くの方々から、がんに立ち向かうための寄付が集まりました。ご協力ありがとうございました。



上：龍澤副院長(実行委員長)の挨拶

左：24時間リレーウォーク

《なでしこ出前健康講座 活動記録》

10月16日(水) 米丸児童館 米丸サロン

講師：保健師 辰村弥生

「健診結果の見方について」

参加者の皆様(13人)に、持参いただいた健診結果をチェック表にあてはめ、今後の注意点や予防方法を説明しました。また、検査値の意味を理解し、毎年定期的に健診を受けることや、二次健診の重要性についても理解を深めていただきました。



10月21日(月) 金石会館 いきいき健康教室

講師：リハビリテーション部副技師長 山川友和

「転倒予防について」

転倒により骨折してしまうと、生活にどのような変化がでてくるか、また病院で行われる手術やリハビリについて、実例を取り入れながら説明を行いました。座りながら体操を行う際の注意点では、全員(26人)が興味深く身振り手振り交えながら、体感を楽しんでいました。



第8回 生活困窮者問題シンポジウム開催レポート

「人が人を支援するということ」～当事者主体の支援を考える～

11月16日(土)13:00～、石川県文教会館(金沢市尾山町)にて、「第8回生活困窮者問題シンポジウム」を、石川県済生会の主催で開催いたしました。

済生会では、「生活困窮者への積極的な支援」を果たすべき役割として位置付けており、毎年、開催地とテーマを変えて当該シンポジウムを開催しています。

生活困窮者が抱える問題は人それぞれであり、貧困のみならずさまざまな要因が背景にあります。また、今なお、支援の手が届かず、家族や地域社会からも孤立している生活困窮者も多くおられます。今回は、自らも当事者としての経験をお持ちの和久井 みちる氏(生活保護問題対策全国会議 幹事)に基調講演をいただき、シンポジウムでは、コーディネーターを馬渡 徳子氏(金沢大学人間社会学域地域創造学類 非常勤講師)に務めていただき、行政、医療、福祉、NPO法人など5人のシンポジストからは、当事者主体の支援についてそれぞれ発表をいただきました。

当日は、足元の悪い中、県内外から270名を超えるご参加をいただきありがとうございました。済生会はこれからも皆さまと共に支援の輪を広げてまいりたく、今後もお力添えいただきますよう、宜しくお願い致します。



登録医のご紹介

慈愛クリニック



〒920-0370 石川県金沢市上安原2丁目196

T E L : 076-269-0411

診療科名：整形外科／外科／内科／リハビリテーション科

休診日：水・土曜午後、日曜、祝日



院長：林 東吉 先生

地域の人々に信頼されるクリニックを目指し安原の地で開業させていただき、早いもので約14年経ちました。今後、更なる信頼され、愛されるクリニックを目指し、努力を続け、分かりやすい丁寧な診療と患者様への説明を心がけてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

マッサン内科・透析クリニック



〒920-8216 石川県金沢市直江東1丁目145

T E L : 076-238-8801

診療科名：内科／腎臓内科（人工透析）

休診日：火・木・土曜午後

第1・第3土曜、日曜、祝日



院長：中川 卓 先生

皆さんはじめまして。マッサン内科・透析クリニック院長の中川です。平成29年10月に金沢市直江東に透析クリニックを開院しました。当院の理念は、これまで培った経験と最新の設備を通じて、患者さまの豊かで快適な住生活の未来に貢献することです。また、安心、安全で健康寿命を延ばす透析治療はもちろん、患者さまとは色々相談できる関係を築けるようスタッフ一同心がけています。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

みやた整形外科



〒924-0015 石川県白山市新田町217番1

T E L : 076-236-2572

診療科名：整形外科／リウマチ科／リハビリテーション科

休診日：土曜午後、木曜、日曜、祝日



院長：宮田 岳人 先生

平成30年5月に白山市新田町に開業いたしました。勤務医時代の経験をもとに正確な診断と的確な治療をご提供し、“何でも相談できる温かいクリニック”を目指しております。どうぞよろしくお願い致します。

◆ 新規着任医師 ◆

眼科 山田 結子（やまだ ゆいこ）

10月より眼科に赴任した山田結子と申します。金沢大学病院眼科入局21年目になります。地域の皆様の目の健康に少しでもお役に立てるようがんばりたいと思います。よろしくお願い致します。

